日光街道 幸手宿
まちあるきコース

幸手宿をまるごと満喫 基本コース
約3.0km および120分

Start 幸手駅

（志手橋周辺）
- 幸手宿 南端
- 神明神社
- 高札場跡
- 岸本家住宅主屋（御成道との合流点）
- 明治天皇行在所
- 旅館「朝萬」
- 天満宮
- 大同寺仲墓地（光福院跡）
- 永文商店
- 神宮寺
- 問屋場跡
- 本陣跡
- 長崎屋跡
- 聖福寺
- 幸手一里塚
- 正福寺
- 幸手宿 北端

幸手宿の権現堂堤をめぐる
しあわせの北コース
基本＋約4.0km ＋ 120分

幸手宿の権現堂堤への最短アクセス
しあわせの南コース
基本＋約3.0km ＋ 90分

- 熊野神社
- さくらファーム
- 権現堂堤 散策
- 雷電神社
- 妙観院
- 幸宮神社
- 鴻神寺
- 天神神社
- 一色稲荷神社
- 祥安寺
- 石井酒造（御成道との合流点）
- 上高野神社
- 天満宮
- 永文商店
- 問屋場跡
- 神宮寺
- 本陣跡
- 長崎屋跡
- 聖福寺
- 幸手一里塚
- 正福寺
- 幸手宿 北端
- 行幸堤之碑
- 橋守部翁遺蹟碑
- 東持寺
- 天神神社
- 一色稲荷神社

Goal 幸手駅

※それぞれのコースは逆回りでもお楽しみ頂けます。
※歩行距離および所要時間は、あくまで目安です。
※私有地への立ちいり、寺社等の管理地での喫煙、文化財への接触などには十分ご注意下さい。

日光街道 宿場めぐり MAP

幸手宿

アイコンの説明（両面共通）
- 蔵・建築物
- 神社
- 寺院
- 道標
- 一色稲荷の池
- 本陣
- 一里塚
- 高札場
- 名所
- 食事処
- カフェ
- 土産処
- 旅館・ホテル
- 自然景観
- 駐車場
- 駐輪場
- 案内所
- トイレ
- 公衆電話
- 郵便ポスト
- 交番

こらむ 幸手宿と弥次喜多 道中
仮名垣魯文（かながきろぶん）が1857（安政4）年に出版した滑稽本『日光道中膝栗毛』では、おなじみの弥次郎兵衛・喜多八が、江戸から奥日光中禅寺まで旅をし、江戸に帰り着くまでの珍道中が描かれている。幸手宿では、杉戸宿で始まった両者の喧嘩が続き、菜橋宿でようやく仲直りしている。

名古屋市蓬左文庫所蔵

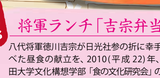
こらむ 「絵馬のまち」幸手
江戸末期以降、幸手は「絵馬の町」としても知られ、狩野派の絵師狩野（鈴木）探妙、その実子で権現堂堤修復絵馬の作者として知られる鈴木国信、また国信の実弟で、仲町の通称「ま平ち（現・久久保酒類）の初代絵師・松林斧亀山（大久保兼吉）など、数多くの絵師を輩出している。

「権現堂堤修復絵馬」鈴木国信 作（市指定文化財）

こらむ トロッコが走る
街道に面する店舗の敷地は「短冊状地割」と呼ばれ、間口に対し奥行きが長い。そのため奥に配置された倉庫から前面店舗へ効率よく荷物を店に運ぶためトロッコが用いられ、幸手では長島カラス店、成田金物店、松林堂、や、「横丁鉄道」として親しまれる永文商店の3店がある。

◀前掲鉄道風土記稿に描かれたトロッコ

こらむ 将軍ランチ「吉宗弁当」
八代将軍徳川吉宗が日光社参の折に幸手で食べた昼食の献立を、2010（平成22）年、早稲田大学文化構想学部「食の文化研究会」の協力を得て再現された。「吉宗弁当」と名付けられ、「割烹ときわや」で提供されている（要予約）。



こらむ 豆腐屋さんが多い幸手宿
幸手には多くの豆腐屋が建在で、まちの特徴のひとつとなっている。幸手では、商工会の協力により、手作り豆腐の魅力を知ってもらう「さって豆富プロジェクト」が始動。現在４店舗の豆腐屋と、飲食店等５店舗のコラボ店舗により、商品開発、販路開拓など様々な取り組みを進めている。

しあわせとうふ ふーちゃん

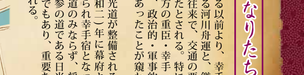
幸手宿のなりたち
日光道中が整備される以前から、幸手は利根川水系による舟運と、奥州街道の脇往来でも栄えていたとされる。幸手が宿場として成立したのは、1604（慶長9）年に徳川家康が日光山の整備のために、政治的・軍事的にも重要な場所であったことが窺われる。

江戸時代になり日光道中の整備とともに、1616（元和2）年に幕府よりの人馬継立を命ぜられ宿場となった。幸手宿は日光社参の際の将軍の休憩や宿泊の場でもあり、重要な地だったと考えられる。

幸手宿の歴史
幸手の始まり
幸手の地名は諸説あり、アイヌ語で「乾いている」を表す「さって」であるとは「水が溜まった流れ」を表す「さりて」を語源とする説や、「さくて（サク）を語源とする説など、様々な説が伝えられている。幸手は古くは「幸手郷」と呼ばれ、「権現堂堤」（堤防）などの下向おおり前の「幸手の一里塚」と言われる「幸手の一里塚」が築かれた。その後、「幸手の一里塚」が築かれた。その後、「幸手の一里塚」が築かれた。その後、「幸手の一里塚」が築かれた。

幸手宿のなりたち
日光道中が整備される以前から、幸手は利根川水系による舟運と、奥州街道の脇往来でも栄えていたとされる。幸手が宿場として成立したのは、1604（慶長9）年に徳川家康が日光山の整備のために、政治的・軍事的にも重要な場所であったことが窺われる。

江戸時代になり日光道中の整備とともに、1616（元和2）年に幕府よりの人馬継立を命ぜられ宿場となった。幸手宿は日光社参の際の将軍の休憩や宿泊の場でもあり、重要な地だったと考えられる。


日光道中分間延絵図（東京国立博物館所蔵）

幸手宿の構成
宿駅としての幸手宿は、南から馬乗り町、仲町、宿宿の4ヶ町よりの構成されており、問宿宿は、江戸時代には、交通の要衝として栄えた。幸手の中心地は、荒宿、右馬之助町が宿の中心であった。一丁目～四丁目（天保十四年）の日光道中宿村大概帳によると、幸手宿の間、家数692軒、人数3937人、本陣1軒、旅籠27軒とあり、城下町に併設された宿を除くと、千住宿、越ヶ谷宿に次ぐ日光道3番目の規模を誇った。

幸手宿 構成図（明治初期）

詳細図-1

1 上高野神社 / 天満宮
上高野村の鎮守。境内社である天満宮（荏柄天神）は一色五天神のひとつ。

2 神明神社 / 菅谷不動尊 他
幸手宿を馬之助町の鎮守、境内社として成田・菅谷不動尊などが祀られる。社の前面には高札場が置かれていたほか、明治初期の全国測量の際の八号（さつ）水準点が置かれる。

あんばさま
今宮大杉神社の祭礼で、6月下旬に疫病のないことを願う神輿遊御（とぎょ）が行われる。

3 一色稲荷神社
幸手宿の一角に祀られていたと考えられている、別名「陸稲稲荷」。

田螺不動尊に伝わる伝説
江戸時代幕末の頃、眼病を患う小林善平の夢枕に成田不動尊が立った。その為めに従い越後の菅谷寺に参詣したところ、たちどころに治癒した。善平は、七馬之助町の上野屋（屋号）庄兵衛と共に、成田不動尊と菅谷不動尊の御堂を建立した。それ以来、２つの目のようなターンを描いた絵馬を奉納する参拝客が増えた。

4 天神神社（裏町天神）
幸手城の鬼門に位置し、守護神として祀られたと考えられる。祭事のひとつは信学者・金子竹香が奉納。

5 萬像山 心観院
本尊は白檀の一木造による一面観音で、幸手一色氏の始の持仏と伝えられる。書洞宗。

6 玉林山 祥安寺
上高野村の小学者・鈴木百淑が書写した「大般若波羅蜜多経」（市指定文化財）が所蔵される。書洞宗。

7 鷹尾山智願院 神宮寺
源頼朝が奥州討伐に向かう際に、鷹を追って当地を訪れ、薬師如来を建立したと伝わる。浄土宗。

8 龍興山 寶持寺
幸手一色氏の祖・一色公深の開基との伝。公深の供養塔が建つほか、系譜や雷神像が伝わるなど、一色氏との関係が深い。書洞宗。

9 幸宮神社
創建より400年以上の歴史を持ち、1914（大正3）年の合祀を機に幸手町の総鎮守となる。

八坂神社の夏祭り
大神輿の宮出しに始まり、各町から勢揃いした全７台の山車が、祭囃子とともに幸手なかを練り歩く。300年の歴史を持つと言われる。

10 荏柄山 滿福寺
幸手一色氏が開基した寺院と伝える。正福寺「義陽窮趣之碑」に記される施餓鬼ここで行われた。真言宗。

献灯会
滿福寺で毎年8/9に行われる四万六千日の祭礼。

11 香水山 正福寺（なかぞね）
正福寺は僧侶の修学機関である「談林所」が置かれ、多くの修行僧を教育した。真言宗。
また「徳川実紀」には、将軍に就任する以前であり数え年９才の四代将軍家綱が、1649（慶安4）年の日光社参の折、この正福寺に宿泊したことが記されている。

日光道中道標
境内にある大きな道標。権現堂河岸と日光道中への道標となっている。

義陽窮趣之碑
天明の飢饉の折、幸手宿の商人たちが困窮人たちのために滿福寺境内で施餓鬼を行ったことを記念して建立された。（県指定文化財）

12 雷電神社
明治以前は田宮庄の総鎮守。田宮の由来ともなった雷神が２神体と言われ、幸手城主一色宮内少輔が奉納したと伝わる。

御嶽山
霊峰木曽御嶽を模した巨大な築山がそびえる。

◀前掲鉄道風土記稿に描かれた御嶽山

13 菩提山 聖福寺（しんてら）
将軍家の休憩所と伝わる。浄土宗。本堂の「将軍の間」の彫刻は、かの日光東照宮「眠り猫」をてがった彫工・左甚五郎の作と伝わるほか、運慶作と伝わる阿弥陀如来、幸手の原工・後藤義光（または義雄）作とといわれる鎧櫃堂の彫刻などがある。山門は唐破風の四脚門で、勅使門と呼ばれる。（市指定文化財）

◀将軍の休憩のための山門

芭蕉の句碑
1693（元禄6）年、深川芭蕉庵での十三夜遠句会で、松尾芭蕉は奥州への旅路を思い起こし「**幸手を行けば栗橋の関**」（上の句は「**きり麦とはや朝めげにうち立て**て」）と詠んだ。なおその時に弟子の曾良が俳句は「**秋おもとふさみ縄ゆふ幸の門**」で、聖福寺の勅使門を詠んだとされる。

14 浅間神社
創建年は不明だが、豪商長崎屋邸建と伝える。長崎屋の奉納と伝わる本殿形制は見事。（市指定文化財）

初山
山開きにあたる毎年6/30、7/10の両日に行われる浅間神社の行事。子どもの額に赤い印（判子）を押し、健やかな成長を祈る。

幸手一里塚
日本橋から12里（約47km）の一里塚跡。街道の両側に築かれ、榎が植えられていた。

豪商長崎屋跡
江戸～明治時代にかけて幸手で複数を営んだ長崎屋。店舗と２つの蔵、４つの門と、四百坪近くを占める立派な屋敷であった。現在は、100坪程の敷地をもつ大地主であった。

旅館「朝萬」
1819（文政２）年創業の老舗旅館。館内に明治末の芸人の宿札が残る。

岸本家住宅主屋
かつて醤油醸造業を営み、1900（明治 33）年パリ万博で銅賞を受賞。現在は主屋を残すのみとなったが、古民家カフェやイベントなどに活用されている。（国登録有形文化財）

本陣跡
幸手宿の本陣は知久家が務め、1876（明治９）年の明治天皇行在所ともなった。

明治天皇行在所
1881（明治 14 年と 1896（明治 29）年の２度の明治天皇の行在所になった旧・中村家邸に建立。雛祭は東京都内に唯一現存。

日光御道
将軍家日光社参の際の水害の難を回避するため整備された迂回路で、一度も使われなかった幻の日光社参路。いまは「妙観橋」入口付近、分岐点の形のみ遺跡が残されている。

幸手駅
JR東日本 東北本線（宇都宮線）

幸手一里塚
日本橋から12里（約47km）の一里塚跡。街道の両側に築かれ、榎が植えられていた。

幸手宿 南端
幸手宿 北端